2 確かな学力の育成

複雑で変化の激しい現代社会において、他者と協働しながらよりよい社会を創造していくためには、一人ひとりが基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自ら課題を見付け、協働的な学習を通して主体的に問題を解決する力を身に付けることが大切です。

そのためには、子ども一人ひとりの学びを大切にし、教師の働きかけを工夫することやＩＣＴを活用して自ら学びを進める力を育成することなどを通して、「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業を構築することが重要です。また、多様な考え方を受け入れ、様々な人々と協働して社会を創ろうとする態度をはぐくむためには、各教科等において様々な文化や価値観、生き方にふれ、思いや考えを伝え合う機会の充実を図ることが大切です。

２－１ 学習指導の充実　　２－２ ＩＣＴを活用した教育の推進
２－３ グローバル化に対応した教育の推進

２－１ 学習指導の充実

目指す授業のイメージ

「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業

子どもたちが、安心して自分の思いや考えを表現したり、互いのよさを認め合いながら学びをつくり上げたりすることができるよう、生徒指導の視点を生かした授業を構築することが大切です。

その上で、学ぶ喜びや分かる楽しさを実感し、新たな課題を見いだしたり、学習方法を工夫したりしながら、自ら学び続けようとする意欲を高めることができるよう、子ども一人ひとりの思いや願い、学ぶ姿に応じた授業改善を図ることが重要です。

◆確かな学びの基盤として　～生徒指導の視点を生かした授業～

自己決定の場を設定する

◇興味や関心を持ち、自ら学びに向かうことができるよう、資料や教材提示の仕方を工夫する。

◇課題解決のための思考などの場面において、自分の考えを持つことができるよう、視点を示し、発問を工夫する。

◇課題に対して学習方法や表現方法を選択する場面を設定したり、個で考える時間を十分に保障したりする。

◇振り返りの視点を具体的に示すことで、学びの成果を実感したり、新たな課題に気付いたりできるようにする。

自己存在感を持たせる

◇前時の振り返りを活用するなど、一人ひとりの学びの成果が本時の学習に結び付いていることを実感できるようにする。

◇子どものつぶやきや反応を丁寧に受け止め、学習の方向付けに生かす。

◇個々の考えのよさについて具体的に取り上げ、価値付ける。

◇一人ひとりの学習状況を見取り、つまずきに対して適切な支援を行う。

◇子ども一人ひとりの成長を認めたり、取組の姿勢を称揚したりする。

共感的な人間関係を育成する

◇子どもの疑問を取り上げるなど、共に課題解決に取り組もうとする意欲が高まるような学習課題を設定する。

◇友達の意見を最後まで聞くなど、学習の約束を大切にし、誰もが自信を持って意見を述べることができるようにする。

◇互いの考えを生かして、よりよい考えを導き出すなど、集団で学ぶことのよさを実感できるようにする。

◇子どもの振り返りを意図的に取り上げ価値付けることで、互いのよさに気付いたり、認め合ったりすることができるようにする。

安全・安心な学びの環境をつくる

◇話したり聞いたりするときの言葉づかいや態度に配慮するなど、互いの考えを尊重し、共感的な人間関係づくりに努め、子ども一人ひとりが安心して学び合うことができるようにする。

◆「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業へのアプローチ

子ども一人ひとりが「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」という思いを広げるためには、課題解決に向けた学びの見通しを持たせ、他者との関わりを通して主体的に学び続けようとする意欲を高める授業づくりが大切です。

そのためには、学びの過程や学習状況を丁寧に見取り、学習の進め方や表現方法を選択する場を設定したり、学びの成果を実感できる振り返りの場面を設定するなど、学びを支える教師の働きかけを工夫することが重要です。

課題解決の見通しや達成感を大切にし、主体的な学びを支える

＜学びの過程や学習状況を見取る視点＞

- 学ぶ目的を自覚し、学習意欲を高めているか。
- 子どもの気付きや考えは、学習の中でどのように変化しているか。

＜教師の働きかけ＞

- 考えてみたいことや挑戦したいことなどを取り上げ、ねらいに迫ることができるめあてや学習課題を設定する。
- 課題解決に向けた学びの見通しを持てるよう、課題や手順を分かりやすく示し、学習の進め方や表現方法を選択できるようにする。

他者との関わりを通して、学びを深める

＜学びの過程や学習状況を見取る視点＞

- 他者との関わりの中で、子どもの見方や考え方がどのように変化しているか。
- 互いの考えを比較したり、関連付けたりしながら学びを深めているか。

＜教師の働きかけ＞

- 多様な考えにふれ、一人ひとりが考えを広げたり深めたりすることができるよう、学習形態を工夫する。
- 子どもの発言やグループの発表に対し、教師が考えの根拠を問い返すなど、思考を深める発問を工夫する。

振り返りを生かし、次の学びへとつなげる

＜学びの過程や学習状況を見取る視点＞

- 自分の状況や学び合いの過程を振り返り、変容や成長を実感しているか。
- 振り返りに、次の学びにつながる気付きや問いが表れているか。

＜教師の働きかけ＞

- 学習の過程を振り返り、互いの考えのよさを認め合う場面を設定するとともに、子どもの変容を価値付ける言葉がけをする。
- 全体で共有した成果が一人ひとりの理解や学習の深まりと結び付くよう、まとめや振り返りの場面を工夫する。

２－２　ＩＣＴを活用した教育の推進

子どもたちの学びをより豊かで広がりや深まりのあるものにするためには、課題解決の方法を自分で決めたり、学んだことから新たな課題を見いだしたりするなどして、自ら学びを進めることができるよう、ＩＣＴを効果的に活用し、適切に情報を選択する力や得られた情報と自分の考えとを組み合わせて新しいものを生み出す力など、情報活用能力を身に付けさせることが大切です。

また、子どもがタブレット端末等を日常的に活用できるよう、全教職員でＩＣＴ機器の効果的な活用のあり方について共通理解を図り、子ども一人ひとりの主体的な学びを支える指導の充実に努めることが必要です。

◆各教科等の学びを深めるために

◇子どもが自ら学びを進めることができるよう、各教科等の特質や学習の過程を踏まえた学習活動の充実を図る。

関心を持つ、見通しを持つ

- 興味や関心、疑問を持った内容についてインターネットやデジタル教科書等を活用し、情報を収集しようとする。
- シミュレーション機能や３Ｄ資料等、デジタルの特徴が生かされた資料を活用し、課題解決の見通しを持つ。

調べる、集める

- 複数のキーワードを入力してインターネット検索を行うなど、効率的に必要な情報を収集する。
- フォーム作成ツールでアンケートを作成するなどし、データを収集して実態を把握したり、意見を集約したりする。

話し合う、交流する

- 協働学習支援ツールの付せん機能を活用するなど、話合いの視点や各自の考えを可視化する。
- オンライン会議ツールを活用して学校と企業、他地域、海外等をつなぎ、インタビュー活動や交流活動を行う。

分析する

- 表計算ソフトのファイルに入力した調査の結果や実験データを他者と共有し、考察を行う。
- 朗読や英語のスピーチ等を記録した動画をもとに、声の大きさや表情、発音等を確認し、改善点について考える。

表現する、発信する

- 内容を分かりやすく伝える上で適切なアプリケーションを選択し、資料を作成する。
- 場面に応じたアプリケーションを選択し、情報の発信や共有に活用する。

振り返る

- 表計算ソフト等に学習記録を蓄積し、自らの学びの過程を振り返る。

◇子どもの多様な学び方に応じた指導や支援ができるよう、教員のＩＣＴを活用する力の向上を図る。

- 協働学習支援ツールやオンライン会議ツール等の基本的な操作方法に関する校内研修会を実施するなど、技能の向上を図る。
- 授業の板書や資料、ワークシートなどをデジタルデータとして保存し、次時の授業や他教科、他学年においても活用できるようにする。
- 子ども一人ひとりの意図や集団の実態に応じてよりよいＩＣＴ活用の方法を提示できるよう、各種アプリケーションの特徴の理解に努める。
- タブレット端末と大型提示装置の接続など基本的な操作方法や、軽度のトラブルへの対応について、校内研修の実施やマニュアルの作成・配布等を通して、共通理解を図る。

タブレット端末活用の利点と活用例

①書きやすい・消しやすい　……　文章の推敲、図の作成
②動かしやすい・試しやすい　……　プログラミング、シミュレーション、付せん機能
③共有しやすい・連動しやすい　……　意見交流、相互評価
④大きくしやすい・着目しやすい　……　大型提示装置での提示、拡大表示
⑤繰り返しやすい・確認しやすい　……　ＡＩ型ドリル、デジタルデータの蓄積
⑥残しやすい・比べやすい　……　板書の写真、表計算のデータ入力
⑦説明しやすい・まとめやすい　……　プレゼンテーションの作成と発表

◆ＩＣＴを日常的に活用する子どもをはぐくむために

◇ＩＣＴを活用した教育の推進に向け、校内体制を整える。

- 子どもの指導や支援、校務への活用、校内環境の整備、の３つの側面からＩＣＴを活用した教育の推進が図られるよう、研究主任および情報教育主任を中心として、組織的な校内体制を整える。
- 各種設定やトラブルへの対応はＩＣＴ支援員と連携して行い、ＩＣＴを円滑に活用できる環境を整える。

◇ＩＣＴの主体的な活用に結び付ける取組の充実を図る。

- キーボードによる文字入力やインターネットでの検索方法を学ぶ時間を設定するなど、ＩＣＴを活用した学びを進める上で基礎となる技能を身に付けられるようにする。
- 子どもが情報社会の一員として、自ら判断し、安全にＩＣＴを活用することができるよう、情報発信や個人情報の取扱い方について学ぶ機会の充実を図る。
- ＡＩ型ドリルを活用した復習や授業に関する動画の視聴等、タブレット端末の活用例を示すなど、家庭での積極的な活用を促す。
- 小中９年間で系統的にスキルを身に付けることができるよう、子どもが身に付けている情報活用能力を把握し、ＩＣＴ活用スキル体系表の見直しを図る。

２－３　グローバル化に対応した教育の推進

多様な考え方を受け入れ、他者と協働してよりよい社会を創造しようとする態度をはぐくむためには、自国の伝統や文化についての理解を深め、様々な文化や価値観にふれる機会の充実を図るとともに、広い視野で物事をとらえ、課題を解決する力をはぐくむことが大切です。

また、自分の考えを主体的に発信したり、世界の人々と思いを伝え合ったりすることができるよう、グローバル社会において求められるコミュニケーション能力を育成することが重要です。

◆様々な文化や価値観、生き方にふれる機会の充実

◇地域の人々や専門家の協力を得ながら、日本やふるさとの伝統、文化等にふれ、よさを見つめ直す学習活動の充実を図る。

◇様々な国や地域の出身の方たちなど、国内外の異なる文化的背景を持つ人々の考え方や生き方にふれ、多様な価値観を尊重するとともに他者と協働しようとする態度をはぐくむ。

◇ＩＣＴを活用し、様々な伝統や文化について情報を収集したり、オンラインで他の地域や他国の人々と交流したりする機会を設ける。

【イングリッシュスクール】

◆広い視野で物事をとらえ、課題を解決する力をはぐくむ学習活動の充実

◇多面的・多角的な視点で物事をとらえ、各教科等で学んだ知識を関連付けて考えたり、新しいものの見方や考え方に気付いたりすることができる機会を設定する。

◇様々な考え方や価値観を持つ人々と協働して課題を解決する場面を設定し、論理的に考えたり、新たな考えを生み出したりすることができる学習活動の充実を図る。

◇人権問題や環境問題など世界が直面している現代的な諸課題を身近な生活や社会と結び付けて考えることを通して、課題意識を持ち、解決に向けてできることに主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

◆グローバル社会で求められるコミュニケーション能力の育成

◇実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語力を身に付けることができるよう、ＡＬＴと共に活動する場面を増やしたり、校内にイングリッシュコーナーを設置するなど、英語にふれる機会の充実を図る。

◇双方向的なコミュニケーション能力を身に付けることができるよう、各教科等において、他者の意見を尊重しながら聞いたり、趣旨を明確にして自分の考えや必要な情報を発信したりする学習活動の充実を図る。

【ＡＬＴの読み聞かせ】